

## (4) 中村小学校

学 校 長 徳 弘 純 一  
校内研究代表者 伊与田 紗 代

### 1. 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり  
—各教科等における見方・考え方を働かせて—

### 2. 主題設定の理由

学習指導要領には、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、資質・能力ベースの授業、主体的・対話的で深い学びの実現、教科等の見方・考え方を働かせる授業が位置付けられている。その具現化に向け、令和3年度から、高知県教育委員会「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業として、中村中学校と共に小中学校9年間の学びをつなぐ資質・能力を育む授業づくりの実現に向けた研究実践に取り組み、系統性を踏まえた授業づくりができつつある。しかしながら、公開授業や研究授業の成果及び課題をもとに日常の授業改善につなげていくことが課題であり、日常の授業における質的向上を図る必要がある。

令和4年度の全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査においては、国語・算数・理科の3教科とも全国平均を上回る等、学力向上の取組成果が見られる。しかし、1月実施の標準学力調査においては、3年国語、6年算数で全国平均を下回った。また、評定1児童の割合が目標値を下回る教科や学年もみられる。実際の授業では、課題や問いを生み出し、解決していく単元構想や学習展開を工夫することで、主体的に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきたが、自分の考えを記述したり、根拠をもとに説明したりすることに課題がある児童や、受動的で自分一人でやり切る力に課題のある児童も依然として見られ、学力差もある。学年間で共通理解を図りながら、確実な学力の向上と低学年からの学習の積み上げをしていく必要がある。

以上のような背景及び児童の実態から研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり—各教科等における見方・考え方を働かせて—」とした。今年度は標記協働校事業において、社会科と外国語科の授業づくりを進めていくが、国語科と算数科については引き続き研究教科とし、校内外の授業研究を通して指導過程や指導方法、発問の工夫、ICTの効果的な活用等、教師の指導性を適切に発揮することで学びや課題に挑戦する意欲を喚起し、子ども同士の関わり合いの質、学びの質、資質・能力の質を高めていきたい。

### 3. 研究の進め方と方法

#### <研究内容>

- (1) 身に付けさせたい資質・能力の明確化と例えば国語科においては有効な言語活動及び数学的活動及び算数科においては数学的活動の設定等、評価規準・評価方法の明確化
- (2) 各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習過程の研究
- (3) 「授業改革ハンドブック」等をもとにした授業の質的改善の研究
- (4) 国語科・算数科で付けたい力と他教科等との関連を図るカリキュラム・マネジメント表の活用
- (5) 1人1台端末のタブレットを活用した授業づくりの推進

#### <研究方法>

一人年間2回以上公開授業を行う。研究授業では西部教育事務所や高知県教育委員会小中学校課等の指導主事等を招聘するとともに、学年や低・中・高学年ブロックを中心に教材研究、学習指導案を作成し、模擬授業や先行授業を行う。他の公開授業については授業構想シートまたは略案を作成する。

## <研究組織>

- ・研究推進委員会の計画的な実施（原則毎週月曜日）
- ・3部会「学力向上部会」「仲間づくり部会」「健康・体力づくり部会」の内、本研究に関しては「学力向上部会」が担う。さらに、学力向上部会を「授業力向上チーム」「確かな学力チーム」「学習環境チーム」の3チーム編成とし、協働的に研究推進する。

## 4. 研究の取組

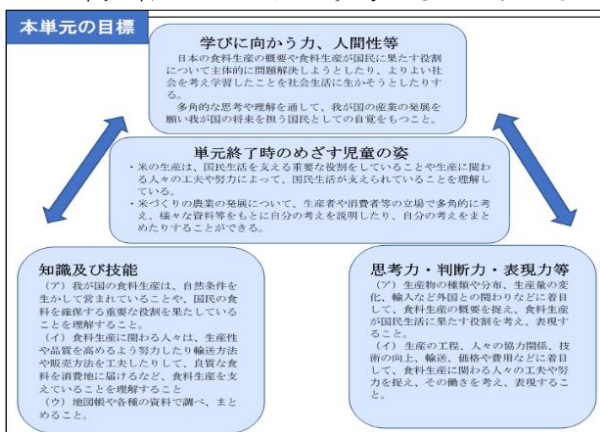
### <授業実践>

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業 授業研究会

◆授業研究会 令和5年6月22日◆

【第5学年】 社会科

単元名「わたしはこう考える！これからの日本の農業～日本人の主食 米づくりを通して～」



☆本時の目標☆

米づくりの現状や課題に着目し、生産に関わる人々の工夫や努力を踏まえて、これからの米づくりについて多角的に捉え、自分の考えを表現している。

☆本時の見方・考え方を働かせている姿☆

米づくりの現状や課題に着目し、生産に関わる人々の工夫や努力を踏まえて、これからの米づくりについて多角的に捉え、自分の考えを表現している。

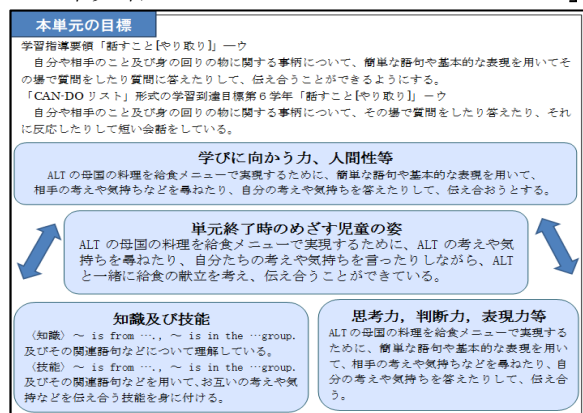


米をPRするチラシに載せる内容について自分の考えを交流する

◆授業研究会 令和5年10月26日◆

【第6学年】 外国語科

単元名「Let's think about our food.」(学習材:ALTの母国の料理を知ろう。)



☆本時の目標☆

ALTの母国の料理を給食メニューで実現するために、相手の好みなどを尋ねたり、答えたりして伝え合うことができる。

☆本時の見方・考え方を働かせている姿☆

ALTの母国の料理を給食メニューで実現するために、もっと聞きたいことや使えそうな表現について考えながら、やり取りをしている。

ペアで必要表現を使ってやり取りする



## 校内研究授業

5月24日	国語科	6年2組	〇〇にこれだけは伝えたい！命を守り抜こう！南海大地震
5月31日	算数科	4年2組	角の大きさ
6月28日	国語科	2年1組	こんな人におすすめ、あなたにぴったりなのはこの本です
10月4日	算数科	3年	大きい数のかけ算のしかたを考えよう
10月18日	国語科	1年2組	わかりやすくつたえよう ぼく・わたしのすきなきょうか
11月15日	国語科	5年2組	主人公の魅力を伝えよう
11月29日	算数科	2年2組	九九をつくろう（かけ算2）
12月6日	算数科	6年1組	並べ方と組み合わせ方
1月24日	算数科	5年1組	多角形と円をくわしく調べよう
1月31日	算数科	1年1組	おおきいかず
2月14日	道徳科	4年1組	絵葉書と切手

### ◆研究授業 令和5年5月24日◆

【第6学年】 国語科

単元名「〇〇にこれだけは伝えたい！命を守り抜こう！南海大地震」

**本単元の目標**

**学びに向かう力、人間性等**  
言葉が持つ良さを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

**単元終了時のめざす児童の姿**

- 自分の考えが伝わるように、資料を引用したり、図表やグラフを用いたりしながら読み手の興味を引くポスターを書こうとしている姿。
- 図示などにより、語句と語句との関係を表すことを通し、記事の要素として必要なことを絞りながら自分の考えを明確なものにしようとしている姿。





☆本時の目標☆  
自分の考えが伝わるための工夫を理解し、友だちとの交流を通して、自分の文章に生かすことができる。

**知識及び技能**  
情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使おうとしている。  
(2)イ

**思考力・判断力・表現力等**

- 引用したり、図表やグラフ等を用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。B(1)エ
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりする。

☆本時の見方・考え方を働かせている姿☆  
事実と自分の考えの繋がりを意識しながら、文章の筋道を整えたり、本や文章などから、必要な語句や文を抜き出して書いたりしている。

資料と文章、見出しと伝えたいことを関連づけて考える

## 5. 今年度の成果と課題

- 昨年度と同様に、実践研究協働校事業を通して、中村小学校・中村中学校で互いに学習指導案検討会に参加したり、小学校の研究授業を中学校の先生方にも参観していただき協議をする中で、小学校における身に付けさせたい力の明確化につながり、小中9年間の系統性を踏まえた授業づくりの研究を進めていくことで授業改善・学力向上への意識の広がりが見られた。
- 社会科及び外国語科を研究教科に加えた今年度の協働校事業における研究授業を通して、子ども自らが課題や問題を見出し、解決していくことが主体的で対話的な学びにつながり、子どもの思考に沿った学習過程となるよう単元及び授業構想をしていくことが重要であると学ぶことができた。
- 学習指導要領解説を読み解くとともに、先進的で示唆に富む講師招聘を行いながら、資質・能力、見方・考え方の捉え方を教員間で共有し研究を進めていく必要がある。
- 学習を通して児童の自分の学びを自覚することにつながる学習過程の工夫（課題設定、発問、対話場面等）や指導と評価の充実を図ることが必要である。
- ICTを効果的に活用した単元構想や学習過程を考え、研究授業や日常の授業の改善につながるよう授業実践し、さらに研究を進めていく必要がある。
- カリキュラム・マネジメント表を見直し、国語科及び算数科を中心に、他教科等と共通する内容同士を関連づけて、意図的・計画的かつ効率的に資質・能力を身に付けていくことが必要である。